

保育所保育の現状と保護者への 子育て支援に対する意識に関する研究

— 山口県内における保育所・保育士・保護者を対象にした調査から —

田中 浩二・馬場 康宏・浅井 拓久也・中川 浩一

はじめに

出生率の低下や児童虐待件数の増加など、子どもや家庭を取り巻く社会認識の変容が求められるようになり、2000年以降には次世代育成支援という考え方に基づいた施策が展開されるようになった。その施策の一つに子育て支援事業があり、市町村や社会福祉法人（保育所や認定こども園）、NPO 法人をはじめさまざまな運営主体が地域の子育て家庭に対する支援を実施している。2019年度には、7,000か所以上の地域子育て支援拠点事業が実施され、その中でも保育所や認定こども園を運営する社会福祉法人が運営する地域子育て支援拠点事業は全体の約4割にのぼり、今日の地域の子育て支援の重要な社会資源として認知されるにいたっている。さらに、保育所保育指針（以下、保育指針）では、子育て支援に関して、地域の保護者等に対する子育て支援のみならず、保育所を利用している保護者に対する子育て支援にも言及しており、保育所の子育て支援機能の期待の高さが伺われる^{1) 2)}。実際、多くの保育現場では、子どもの成長発達を支えるために日々さまざまな活動や経験の機会を計画・提供するとともに、保護者に対しても情報発信をはじめとして、子どもや保護者に対しての支援を実践してきた。これからも見て取れるように、もはや子育ては子どもの親のみが担うものではなく、社会全体で支えていくことが求められていると言えるものの、保育者として何をどの程度まで保育を行うことが良いのかの明確な答えはなく大きな葛藤材料の一つとなっている³⁾。現在の保育指針では、保育所の有する子育て支援機能を地域の子育て家庭だけでなく、保育所を利用している家庭、すなわち保育所の保護者にも提供することとなっており、この場合、保育所は子どもに対する保育と保護者に対する子育て支援といった形で広範な支援を行うことが求められている^{3) 4)}。子どもに対する保育や保護者に対しての子育て支援は必ずしも切り離して考えられるものではなく、育児や子育てに関する知識や技術の提供など、保護者に対しての直接的な支援もあるが、保育として行われている子どもに対する成長・発達の援助も保護者にとっての子育ての支援に他ならない。つまり、現在、保育所で行われている保育は保護者への子育て支援をも含んだ包括的な営みと言える。一方、個々の保育内容が、具体的に、どの程度、子育ての支援につながっているかという点については不明確であることも事実である。日常行われている保育がどの程度保護者の子育ての支援として有益であるかを明らかにすることは、今後の保護者に対する子育ての支援を考える意味において、また、これまでの保育や子育ての支援を振り返る意味においても意味のある取り組みだと考えられる。

そこで、本調査は、保育所で実践されている保育が、保育所を利用している保護者の子育て支援にどの程度貢献しているのかを定量的に把握すること、さらに今後の保護者の子育て

支援をより充実させるために保育所として何ができるかの検討に寄与することを目的として実施した。

方 法

1 調査対象

本調査は、山口県内に所在する公立および私立保育所301ヶ所とした。本研究では、保育所ならびに保育士、保護者の3者の意識の比較を目的としているため、調査対象である保育所について、保育所の意識としては所長や園長（以下、所長）や主任保育士など保育所運営に携わる者が回答し、保育士については保育士が、保護者については保護者が回答した。なお、1つの保育所につき保育所の意識が1件、保育士が5名、保護者が10名回答してもらった。

2 調査内容

調査内容については、保育および子育て支援に関連する質問項目群（Ⅰ～Ⅴ）を設定し、保育所ならびに保育士、保護者それぞれの視点から回答する構成とした。具体的には、項目群Ⅰ「基本情報」では、年齢や経験年数など回答者の属性に関する項目、項目群Ⅱ「子育て支援に関する意識」では子育て支援に関する意識（5項目）を設定した。さらに、項目群Ⅲでは保育所保育指針に基づく保育内容として45項目、項目群Ⅳでは子育て支援に関連する保育内容として20項目、項目群Ⅴでは保護者が参加する行事等について15項目をそれぞれ設定し、保育所では意識や実施状況を、保育士および保護者にはこれらが保護者の子育て支援に対して有効であるかについて回答してもらった。なお、回答は、3件法および4件法による選択肢として設定し、それぞれ該当する回答を選んでもらった。

3 調査方法および調査期間

本調査は、保育所および保育士、保護者用の調査票を山口県内の各保育所に配布し、それぞれの調査票を各保育所で取りまとめた上、郵送にて回収した。

調査は2018年5月から6月に実施した。

4 分析方法

分析については、各項目の記述統計量を算出した。なお、比較する項目については回答数が異なるため、保育所ならびに保育士、保護者の結果を比較しやすいよう、回答結果をItem Indexを用いた再計算を行った。

具体的には、3件法および4件法で得られた結果を0から100の値で表現するように再計算するものであり、例えば4件法によるItem Indexは以下の数式で求めた。

$$\text{Item Index} = \frac{(N(a1) \times 0) + (N(a2) \times 1 \times 1/3) + (N(a3) \times 2 \times 1/3) + (N(a4) \times 3 \times 1/3)}{(N(a1) + N(a2) + N(a3) + N(a4))}$$

a1=「意識していない（有効ではない）」、a2=「あまり意識していない（あまり有効ではない）」

a3=「まあまあ意識している（まあまあ有効である）」、a4=「意識している（有効である）」

例として、保育所の設問1「保育者が子どもの健康状態を把握すること」について、すべての回答が「意識している」だった場合、Item Indexは「100」になり、すべての回答が「意識していない」だった場合にはItem Indexは「0」になる。仮に、200人の回答者のうち、半数の100件が「意識している」とし、残りの半数100件が「意識していない」であればItem Indexは「50」となる。Item Indexはサンプル数の影響を受けにくいので、サンプル数が異なる保育所や保育士、保護者のそれぞれの回答の傾向を相対的に比較することが可能になる。

集計ならびに統計量の算出にあたっては、SPSS 24.0Jを使用した。

5 倫理的配慮

調査票に調査の趣旨およびデータの取り扱い、個人情報に関する説明を記すとともに、調査同意書を付し、調査に協力する旨の意思表示ならびに署名のあったもののみを集計・分析の対象とした。

結果と考察

1 調査対象の概要

山口県内のすべての公私立保育所301ヶ所に調査票を配布し、208ヶ園から回答を得た。調査票別の回収件数はそれぞれ保育所206件、保育士957件、保護者1,585件となり、さらに、質問項目数に対する未回答が保育所では30%以上、保育士と保護者では20%以上あるものを集計および分析から除外した。

その結果、最終的な集計・分析対象件数は保育所では204件、保育士では947件、保護者では1,573件となった。

回答が得られた保育所および保育士、保護者の基本情報（定員、園児数、年齢、経験年数など）はそれぞれ次に示すとおりであった。

204件の保育所の概要を表1に示した（表1）。定員の平均は86.8（SD±41.4）人、入所児童数の平均は78.1（SD±45.4）人だった。保育所に勤務している保育士数の平均は常勤保育士が11.3（SD±8.3）人、非常勤保育士が6.8（SD±12.2）人だった。支援センターの実施については、「実施していない」が122件（59.8%）、「実施している」が73件（35.7%）となり、「実施している」うち、26件（35.6%）が「自主事業としての実施」だった。

分析対象となった947件の保育士の概要について（表2）、保育士の平均年齢は37.0（SD±11.2）歳、平均経験年数は13.2（SD±9.7）歳だった。

平成28年度に担当した児童は、それぞれ「0歳児」が115件（12.9%）、「1歳児」が132件（14.8%）、「2歳児」が156件（17.4%）、「3歳児」が126件（14.1%）、「4歳児」が113件（12.6%）、「5歳児」が134件（14.1%）、「子育て支援センター担当」が20件（2.1%）、「その他」が98件（10.3%）となった。

「これまでの担当児童の経験」では、「2歳児」の経験が719件（78.2%）とが最も多くなり、「子育て支援センター」の経験は67件（7.3%）だった。

1,573件の保護者の概要として（表3）、回答者の平均年齢は36.3（SD±5.3）歳、性別は1,416件（90.0%）が女性だった。平日の平均勤務時間は7.1（SD±1.9）時間だった。「子ど

もの人数」は平均2.3 (SD±0.8) 人で、「保護者として保育所に関わっている年数」の平均は5.43 (SD±2.9) 年となった。

表 1 保育所の基本情報

n=204

項目	結果の概要		
定員	平均 86.8(SD±41.4) 人		
園児数	平均 78.1(SD±45.4) 人		
常勤保育士数	平均 11.3(SD±8.3) 人		
非常勤保育士数	平均 6.9(SD±12.2) 人		
支援センターの実施	なし	—	
	実施 73(35.7%)	地域子育て拠点事業 47(24.1%)	自主実施 26(13.3%)

注1：割合は欠損値を除外した合計に対する割合。

表 2 保育士の基本情報

n=947

項目	結果の概要			
年齢	平均 37.0(SD±11.1) 歳			
経験年数	平均 13.2(SD±9.7) 年			
平成28年度 担当児童	0歳児 115件(12.9%)	1歳児 132件(14.8%)	2歳児 156件(17.4%)	
	3歳児 126件(14.1%)	4歳児 113件(12.6%)	5歳児 134件(15.0%)	
	子育て支援センター 20件(2.2%)		その他 98件(11.0%)	
これまでの 担当児童の経験 ^{注2}	0歳児 594件(64.6%)	1歳児 686件(74.6%)	2歳児 719件(78.2%)	
	3歳児 683件(74.2%)	4歳児 651件(70.8%)	5歳児 572件(62.2%)	
	子育て支援センター 67件(7.3%)		その他 85件(9.3%)	

注1：割合は欠損値を除外した合計に対する割合。

注2：「これまでの担当児童の経験」は複数回答。

表 3 保護者の基本情報

n=1573

項目	結果の概要	
年齢	平均 36.3(SD±5.3) 歳	
性別	女性 1416件(90.8%)	男性 144件(9.2%)
勤務時間	平均 7.1(SD±1.9) 時間	
子どもの人数	平均 2.3(SD±0.8) 人	
保育所との関わり	平均 5.4(SD±2.9) 年	

注1：割合は欠損値を除外した合計に対する割合。

2 保護者に対する子育て支援に関する意識

項目群Ⅱ「保護者に対する子育て支援について」として、保育所が実施する子育て支援についての意識を保育所および保育士、保護者に質問した。いずれの設問も、「保育所が行う保護者への子育て支援」についての意識であり、保育所と保育士、保護者の意識を比較できるように設定した。具体的な設問は以下に示すとおりである。

保育所に対しては、項目1.「貴保育所の方針として、保護者からの子育てに関する相談を積極的に受けていますか」、項目2.「貴保育所の方針として、日々の保育で、保護者の子育て支援をすることを意識していますか」、項目3.「貴保育所の保護者は、保育士が今以上に子育ての支援をすることを期待していると思いますか」、項目4.「貴保育所の方針として、保育所の仕事（役割）として保護者の子育てを支援することが必要だと思いますか」、項目5.「貴保育所の方針として、保護者に対する子育ての支援を今以上に積極的にしたいと思いますか」の、5つの質問を設定し、それぞれ5段階で回答してもらった。

保育所の意識についての結果を表4に示した。項目1および項目2、項目4で9割以上が保護者からの相談を「まあまあ受けている」「受けている」、保護者への子育て支援を「まあまあ意識している」「意識している」と回答しており、保護者への子育て支援に対して、保育所が積極的に取り組んでいる姿勢が明らかになった。一方、項目3の「保育所の保護者は、保育士に今以上に子育て支援をすることを期待していると思いますか」および項目5.「保育

表4 保護者に対する子育て支援に関する保育所の意識

n=204

項目	受けていない*1 意識していない*2 思わない*3	あまり受けていない*1 意識していない*2 思わない*3	まあまあ受けている*1 意識している*2 思う*3	受けている*1 意識している*2 思う*3
1. 保育所の方針として、保護者から子育てに関する相談を積極的に受けていますか*1	2(1.0)	8(3.9)	61(30.0)	132(65.0)
2. 保育所の方針として、日々の保育で保護者の子育て支援をすることを意識していますか*2	0(0.0)	1(0.5)	34(16.7)	169(82.8)
3. 保育所の保護者は、保育士が今以上に子育て支援をすることを期待していると思いますか*3	1(0.5)	41(20.3)	88(43.6)	72(35.6)
4. 保育所の方針として、保育所の仕事（役割）として保護者の子育てを支援することが必要だと思いますか*3	0(0.0)	4(2.0)	36(17.6)	164(80.4)
5. 保育所の方針として、保護者に対する子育ての支援を今以上に積極的にしたいと思いますか*3	2(1.0)	26(12.7)	74(36.6)	100(49.5)

注1：()は欠損値を除外した合計に対する割合。

注2：設問に対する選択肢は*番号に対応している。

所の方針として、保護者に対する子育ての支援を今以上に積極的にしたいと思いますか」については、全体的には「思う」「まあまあ思う」とする傾向ではあるものの、その程度は二分される結果となった。

保育士に対しては、項目1.「保護者から子育てに関する相談を受けることがありますか」、項目2.「日々の保育の中で保護者の子育ての支援をすることを意識していますか」、項目3.「保護者は、保育士が今以上に子育ての支援をすることを期待していると思いますか」、項目4.「保育士の仕事（役割）として保護者の子育てを支援することが必要だと思いますか」、項目5.「日々の保育の中で、保護者に対する子育ての支援を今以上に積極的にしていきたいと思いますか」の5つの質問を設定し、それぞれ5段階で回答してもらった。

保育士の意識については表5に示した。全体としてはそれぞれの設問に対して「意識している」や「思う」の割合が高いものの、その程度は大きく二分される結果となっていた。特に、項目3.「保護者は、保育士が今以上に子育ての支援をすることが必要だと思いますか」に対して、「まあまあ思う」が49.4%に対して、「思う」とした回答者は約35%であり、「あまり思わない」との回答も約16%みられた。

表5 保護者に対する子育て支援に関する保育士の意識

n=947

項目	ほとんどない*1 意識していない*2 思わない*3	あまりない*1 あまり意識していない*2 思わない*3	ときどきある*1 まあまあ意識している*2 思う*3	しばしばある*1 意識している*2 思う*3
1. 保護者から子育てに関する相談を受けることがありますか*1	32(3.4)	75(8.1)	658(70.9)	163(17.6)
2. 日々の保育の中で、保護者の子育ての支援をすることを意識していますか*2	2(0.2)	43(4.7)	426(46.1)	453(49.0)
3. 保護者は、保育士が今以上に子育ての支援をすることを期待していると思いますか*3	0(0.0)	147(15.9)	456(49.4)	321(34.7)
4. 保育士の仕事（役割）として保護者の子育てを支援することが必要だと思いますか*3	0(0.0)	23(2.5)	277(29.9)	626(67.6)
5. 日々の保育の中で、保護者に対する子育ての支援を今以上に積極的にしていきたいと思いますか*3	5(0.5)	86(9.3)	437(47.4)	394(42.7)

注1：（ ）は欠損値を除外した合計に対する割合。

注2：設問に対する選択肢は*番号に対応している。

保護者については、項目1.「これまでに保育者に子育てに関する相談をしたことがありますか」、項目2.「日々の保育が、あなたのお子さんの成長・発達に役立っていると思いま

すか」、項目3.「日々の保育が、あなたの子育ての支援になっていると思いますか」、項目4.「保育所や保育士が行なっているあなたへの子育ての支援に満足していますか」、項目5.「保育所や保育士が今以上にあなたの子育ての支援をすることを望みますか」の5つの質問を設定し、それぞれ5段階で回答してもらった。

保護者の意識については表6に示した。項目2.「日々の保育が、あなたのお子さんの成長・発達に役立っていると思いますか」や項目3.「日々の保育が、あなたの子育ての支援になっていると思いますか」で非常に高い満足度や保育所での保育が子育ての支援に役立っているとの回答が示される結果となった。また、項目5.「保育所や保育士が今以上にあなたの子育ての支援をすることを望みますか」の質問に対して、「望む」傾向の回答と「望まない」傾向の回答がほぼ半数同士となり、現状の保護者への子育ての支援には満足しているものの、さらなる保育所での子育て支援を望む意見も相当数存在することが明らかとなった。

表6 保護者に対する子育て支援に関する保護者の意識

n=1574

項目	ほとんどない*1 思わない*2 満足していない*3 望まない*4	あまりない*1 あまり思わない*2 満足していない*3 望まない*4	ときどきある*1 まあまあ思う*2 満足している*3 望む*4	しばしばある*1 思う*2 満足している*3 望む*4
1. 保育者に子育てに関する相談をしたことがありますか*1	233 (14.9)	336 (21.5)	852 (54.6)	140 (9.0)
2. 日々の保育が、あなたのお子さんの成長・発達に役立っていると思いますか*2	0 (0.0)	3 (0.2)	148 (9.5)	1413 (90.3)
3. 日々の保育が、あなたの子育ての支援になっていると思いますか*2	0 (0.0)	4 (0.3)	176 (11.3)	1383 (88.5)
4. 保育所や保育士が行っているあなたへの子育ての支援に満足していますか*3	3 (0.2)	19 (1.2)	474 (30.4)	1065 (68.2)
5. 保育所や保育士が今以上にあなたの子育ての支援をすることを望みますか*4	169 (10.9)	587 (37.9)	553 (35.7)	241 (15.5)

注1：()は欠損値を除外した合計に対する割合。

注2：設問に対する選択肢は*番号に対応している。

3 保育所保育指針に基づく保育内容での子育て支援の有効性に関する意識

保育所で行われている保育の内容が保護者の子育てに有効であることを確認するために、保育指針をもとに、「保育者が子どもの健康状態を把握すること」や「子どもが身の回りを清潔にすること」「子どもが自然に親しみや関心を持つこと」など、保育に関連する具体的な行為45項目を項目群Ⅲとして設定した。さらに、これらの項目について、保育所には「保育所の方針として意識しているか」、保育士には「日常の保育の中で意識しているか」と「保護者の子育て支援として有効であるか」の2つの観点、保護者には「あなたの子育て支援と

して有効であるか」の観点でそれぞれ回答してもらった。回答は、いずれも4段階の選択肢で回答してもらった。

保育指針に基づく45項目の保育内容について、保育所が「保育所の方針として意識しているか」として質問した回答の結果を表7に示した。

保育所では、全ての項目で「まあまあ意識している」「意識している」の合計が8割を超える結果となり、Item Indexにおいてもほぼ全ての項目で90あるいは95を超える値となった。その中でも、項目1.「保育者が子どもの健康状態を把握すること」や項目2.「保育者が子どもの事故を防止すること」、項目6.「保育者が子どもの発達状態を把握すること」といったいわゆる「養護」の「生命の保持」に関する内容や、項目11.「子どもが食事の仕方を身につける」や項目19.「子どもが保育士や友達と意欲的に生活や遊びを楽しむこと」、などの5領域における「健康」や「人間関係」に関する内容が特に高い値を示した。

保育士の2つの観点のうち、まず、「日常の保育の中で意識しているか」については、保育所の結果と同様に、すべての項目でItem Indexが80を超える結果となり、保育指針に基づく内容について非常に高い意識で保育を行なっていることが明らかになった。2つ目の観点である「保護者への子育ての支援として有効であるか」について、45項目すべての項目で、「まあまあ有効だと思う」「有効だと思う」の合計が約9割を超え、Item Indexでも高い値を示す結果となり、保育士自身が行う保育そのものが保護者の子育ての支援に有効であると感じていることが明らかとなった。

保護者の結果においても、保育所や保育士の結果と同様に、全体的にItem Indexが90を超える値なる非常に高い有効性を示す結果であったと同時に、その中でも項目1.「保育者が子どもの健康状態を把握すること」や項目3.「保育者が子どもの事故を防止すること」、項目6.「保育者が子どもの発達状態を把握すること」などを「養護」の「生命の保持」に関連する項目で高い有効性を示す結果となった。一方、5領域に関連する項目では、保育所や保育士では「健康」や「人間関係」に関連する項目で高い意識や有効性を示す結果になったのに対し、保護者の結果では、「健康」と「人間関係」に関連する項目に加え、「環境」や「言葉」「表現」に関連する項目においても「有効である」との回答が多数を占める結果となった。

4 保育所保育指針に基づく保育内容での子育て支援の有効性に関する意識

子育て支援に関連する保育内容として、日常的に保育所で実施され、かつ保護者に行うことが保護者の子育てに効果を及ぼすと考えられる20項目を項目群IVとして設定し、保育所および保育士、保護者にそれぞれ質問した。選択肢については、保育所には「実施していない」および「必要に応じて実施している」、「積極的に実施している」の実施状況に関する3段階の選択肢を設定した。保育士および保護者に対しては、それぞれの項目の有効性について、「有効ではない」から「あまり有効ではない」、「まあまあ有効である」、「有効である」の4段階で回答してもらった。集計については前項と同様に比較を行いやすいように、項目ごとのItem Indexとして再計算した。

子育て支援に関連する20項目の保育内容について、保育所の意識として実施の状況を質問した結果を表8に示した。「積極的に実施している」との回答が多かった項目は項目4.「保育者が保護者に子どもの成長発達の良い面を伝えること」や項目6.「保育者が保護者に子どもの日々の生活の成果や良い面を伝えること」であり、Item Indexも90を超えた。一方、

表7 保育指針に基づく保育内容についての意識（有効性）のItem Indexの結果

項目	保育所 意識	保育士		保育者 意識
		意識	有効	
1. 保育者が子どもの健康状態を把握すること	99.5	98.9	96.1	95.5
2. 保育者が子どもの疾病の予防をすること	95.4	92.5	92.4	88.7
3. 保育者が子どもの事故を防止すること	99.2	99.2	95.1	93.5
4. 保育者が子どもの生理的欲求を満たすこと	96.7	92.8	90.3	82.0
5. 保育者が子どもの生活の援助をすること	95.3	92.6	88.8	83.7
6. 保育者が子どもの発達状況を把握すること	97.9	96.9	94.2	92.8
7. 保育者が子どもの欲求へ応答すること	95.9	92.5	89.2	82.1
8. 保育者が子どもに応答的に触れ合うこと	96.4	93.5	90.1	89.8
9. 保育者が子どもの気持ちを受容すること	97.7	95.9	91.7	91.6
10. 保育者が子どもの主体的な活動へ働きかけること	96.1	90.9	89.5	91.7
11. 子どもが食事の仕方を身につけること	96.6	94.6	91.2	92.5
12. 子どもがトイレを上手に使うこと	96.7	91.8	90.2	93.5
13. 子どもが運動や食事の後は静かに休むこと	90.2	87.5	83.1	86.0
14. 子どもが衣服の着脱や調節をすること	94.9	91.3	89.0	90.5
15. 子どもが身の回りを清潔にすること	95.4	92.4	90.4	91.3
16. 子どもが体に関心を持ち、異常を知らせること	95.3	88.9	90.6	91.1
17. 子どもが生活の中での安全の習慣を身につけること	97.4	94.8	92.4	93.7
18. 子どもが積極的に外で様々な運動や遊びをすること	97.5	95.0	90.2	96.8
19. 子どもが保育士や友達と意欲的に生活や遊びを楽しむこと	98.2	95.8	91.0	96.9
20. 子どもが集団遊びを楽しみ、ルールを作ったり守ったりすること	96.7	92.4	90.5	96.8
21. 子どもが自分の思いを言えたり、相手の思いに気づくこと	97.9	95.4	92.3	95.0
22. 子どもが生活の中でのきまりの大切さに気づき守ること	96.1	94.7	92.0	95.3
23. 子どもが共同の遊具や用具を大切にし、譲り合って使うこと	96.7	94.9	90.3	95.7
24. 子どもが身近な人にいたわりや感謝の気持ちを持つこと	96.2	93.9	92.5	95.0
25. 子どもが自分とは異なる文化を持った人に関心を持ち知ろうとすること	81.9	69.1	76.9	87.6
26. 子どもが身近な動植物に親しみや関心を持ち世話などをすること	92.2	86.1	84.4	93.7
27. 子どもが自然に親しみや関心を持つこと	96.4	92.4	86.2	94.9
28. 子どもが自然や身近な事物を取り入れて遊ぶこと	93.8	87.6	84.2	94.6
29. 子どもが公共施設等の役割に関心を持ち公共物を大切にすること	87.9	82.7	87.2	91.1
30. 子どもが数や量、形、位置、時間などに関心を持つこと	92.5	84.9	85.6	91.7
31. 子どもが数を数えたり順番を理解すること	93.0	90.2	89.2	94.6
32. 子どもが保育所や地域の行事などに関心を持ち進んで参加すること	93.6	87.1	88.4	91.9
33. 子どもが日常のあいさつをすること	98.0	97.9	95.0	95.7
34. 子どもが人への伝言や質問、応答、報告をすること	91.7	85.9	88.6	92.5
35. 子どもが友だちとの共通の話題についての会話を楽しむこと	92.3	86.3	87.3	93.3
36. 子どもが人の話を注意して聞き、相手にわかるように話すこと	94.9	90.7	90.5	92.3
37. 子どもが童話や詩などの面白さや美しさに気づき楽しむこと	92.6	87.7	85.5	92.6
38. 子どもが絵本や物語に親しみ想像して楽しむこと	95.8	91.7	87.3	93.9
39. 子どもが日常生活に必要な文字や標識に関心を持つこと	91.0	81.9	86.2	92.7
40. 子どもが音や形、動きなどに気づき、感動や発見を表現すること	93.3	87.7	84.0	93.7
41. 子どもが音色やリズムの楽しさを味わうこと	92.8	89.8	83.9	94.6
42. 子どもが様々な素材や用具を使って創造的に描いたり作ったりすること	93.0	89.0	83.9	95.2
43. 子どもが友だちと協力して描いたり作ったりすることを楽しむこと	92.5	85.5	84.4	94.8
44. 子どもが感じたり想像したことを自由に表現したり演じたりすること	91.7	86.9	84.3	93.5
45. 子どもが表現したものを互いに見せたり、聞かせあったりすること	90.2	84.2	83.6	92.9

項目12.「保護者に保育課程の説明をすること」や項目13.「保護者に指導計画の説明をすること」、16.「3歳未満の子どもの保護者に個別指導計画の内容を説明すること」はItem Indexが50を下回っており、保育の計画を保護者に伝えることには比較的消極的な傾向が見られた。また、項目5.「保育者が保護者に子どもの成長発達の課題や問題を伝えること」や項目7.「保育者が保護者に子どもの日々の生活の課題や問題を伝えること」といった、子どもの課題等の伝達も、子どもの良い面の伝達に比べて相対的に低い結果となった。

保育者の意識では、保育所の結果と同様に項目4.「保育者が保護者に子どもの成長発達の良い面を伝えること」や項目6.「保育者が保護者に子どもの日々の生活の成果や良い面を伝えること」などがItem Indexも90を超える結果となった。一方、項目12.「保護者に保育課程の説明をすること」や項目13.「保護者に指導計画の説明をすること」、項目16.「3歳未満の子どもの保護者に個別指導計画の内容を説明すること」も保育所の結果と同様にItem Indexが70を下回るやや低い結果となった。

保護者の結果で、最もItem Indexが高かった項目は、項目2.「送迎時の対話」で日々の保育内容や子どもの様子を伝えること」の94.6であり、次いで項目6.「保育者が保護者に子どもの日々の生活の成果や良い面を伝えること」の94.5、項目4.「保育者が子どもの成長発達の良い面を伝えること」の94.0となった。これらの項目を含むほとんどの項目で「まあまあ有効だと思う」や「有効だと思う」の合計が8割以上を占める結果となった。保護者の結果の大きな特徴の一つとして、保育所や保育士の結果では、比較的到低いItem Indexを示した項目12.「保護者に保育課程の内容を説明すること」や項目13.「保護者に指導計画の内容を説明すること」などの保育の計画や背景などを知ることや、項目5.「保育

表8 子育て支援に関連する保育内容（20項目）に対する実施状況および意識のItem Indexの結果

項目	保育所	保育士	保護者
1.「連絡ノート」を活用して日々の保育内容や子どもの様子を伝えること	81.4	88.5	88.8
2.「送迎時の対話」で日々の保育内容や子どもの様子を伝えること	71.8	98.4	94.6
3.「園内の掲示」を活用して日々の保育内容や子どもの様子を伝えること	81.4	88.7	91.0
4.保育者が保護者に子どもの成長発達の良い面を伝えること	93.9	97.0	94.0
5.保育者が保護者に子どもの成長発達の課題や問題を伝えること	63.2	85.0	92.4
6.保育者が保護者に子どもの日々の生活の成果や良い面を伝えること	93.6	97.1	94.5
7.保育者が保護者に子どもの日々の生活の課題や問題を伝えること	64.2	84.1	92.5
8.保護者が参加する行事を設けること	76.6	87.0	86.6
9.保護者会など保護者の自主的な活動を支援すること	60.1	77.5	78.1
10.保護者の相談を受けたり、助言を行うこと	79.9	94.0	89.0
11.保護者に保育方針を説明すること	71.1	77.0	85.2
12.保護者に保育課程の内容を説明すること	49.3	66.3	83.9
13.保護者に指導計画の内容を説明すること	44.6	64.3	81.8
14.入園前等に見学や保育園の説明をすること	86.3	89.8	89.0
15.保育室の環境づくりの意味を説明すること	56.2	73.9	82.0
16.3歳未満の子どもの保護者に個別指導計画の内容を説明すること	42.7	65.3	79.8
17.育児不安が見られる保護者に個別に支援を行うこと	75.2	92.5	88.0
18.育児不安が見られる保護者の対応として関係機関と連携をとること	72.2	93.6	88.6
19.障害等のある子どもを持つ保護者に助言や指導を行うこと	69.2	85.3	87.8
20.虐待等の不適切な養育が疑われる保護者に対応すること	62.6	88.3	89.9

者が保護者に子どもの成長発達の課題や問題を伝えること」や項目7.「保育者が保護者に子どもの日々の生活の課題や問題を伝えること」といった、子どもの保育所での生活上の課題等を知ることも含めて高い Item Index の値を示した。

5 保護者が参加する行事等に対する意識

保育所で行われている行事等として、「保護者懇談会」や「個人面談」、「運動会」、さらには「延長保育」や「休日保育」など15項目を項目群Vとして設定し、それぞれについて、保育所は実施状況、保育士および保護者には子育ての支援としての有効性を質問した。保育所の実施状況に関しては、「実施しておらず、する予定もない」から「実施していないが、実施を検討している」、「今後実施する予定である」「実施している」の4段階の選択肢で回答してもらった。保育士および保護者にはそれぞれの項目に対する有効性として、保護者に対する子育て支援として、「有効ではないと思う」から「あまり有効ではないと思う」、「まあまあ有効だと思う」、「有効だと思う」の4段階の選択肢から回答してもらった。結果は、項目群ⅢおよびⅣと同様に、Item Index として再計算を行なった。これにより、保育所の回答は Item Index の値が高いほど実施している程度が高いことになり、保育士および保護者は Item Index が高いほど有効だと感じる程度が高いことを意味する。

保護者が参加する行事等15項目についての意識を表9に示した。保育所の回答として、「実施している」が最も多かった行事等は項目10.「卒園式」の168件(83.6%)であり、ついで項目8.「発表会(お遊戯会など)」の156件(77.2%)、項目4.「保育参観」154件(75.9%)であった。実施の程度を示す指標となる Item Index では項目10.「卒園式」の94.2を筆頭に、項目4.「保育参観」や項目8.「発表会」、項目7.「運動会」が90を超えた他、10項目で Item Index が80を上回りました。一方、項目13.「夜間保育」の Item Index が37.3と最も低く、選択肢での「実施しておらず、する予定もない」が46件(25.8%)となった。

表9 保護者が参加する行事等についての実施状況および意識の Item Index の結果

項目	保育所 実施状況	保育士 意識(有効性)	保護者 意識(有効性)
1. 保護者懇談会	84.2	81.7	77.4
2. 個人面談	89.6	87.1	82.0
3. 家庭訪問	52.2	56.7	49.4
4. 保育参観	91.8	89.4	92.1
5. 保育体験(参加)	81.7	81.6	81.9
6. 親子遠足	81.4	83.7	87.4
7. 運動会	91.1	92.0	96.6
8. 発表会(お遊戯会など)	91.6	91.2	96.9
9. 入園式	85.5	85.6	92.5
10. 卒園式	94.2	91.1	96.7
11. 延長保育	81.1	87.1	93.0
12. 休日保育	52.9	58.9	76.8
13. 夜間保育	37.3	49.6	59.9
14. 病児・病後児保育	59.4	67.0	78.8
15. 保護者と一緒に指導計画や個別指導計画を作成すること	44.4	47.1	67.8

保育士の意識として、Item Index において最も有効性が高いと示された項目は、項目7.「運動会」の92.0であり、次いで項目8.「発表会」の91.2、項目10.「卒園式」の91.1であった。Item Index が80を超えた項目も、保育所の実施状況と同様の10項目となった。一方、項目3.「家庭訪問」や項目12.「休日保育」、項目13.「夜間保育」、項目15.「保護者と一緒に指導計画や個別指導計画を作成すること」は「有効でない」および「あまり有効ではない」の回答と、「まあまあ有効だと思う」および「有効だと思う」の回答が二分される結果となった。

保護者の回答では、Item Index が80を超えた項目は、項目2.「個人面談」や項目4.「保育参観」、項目5.「保育体験（参加）」など9項目だった。その中でも、項目7.「運動会」や項目8.「発表会」、項目10.「卒園式」はItem Index が90を上回っているとともに、選択肢での「有効だと思う」割合も90%を超える高い有効性を感じている結果となった。また、項目3.「家庭訪問」のみがItem Index が49.4と低い値を示したものの、「有効である」と考える群と「有効ではない」と考える群が二分されている結果となった。

6 結果と考察のまとめ

記述統計量での結果を中心に、保育所での保育が保護者への子育ての支援に有効であるかについてみた結果、主に次の三点のことが示唆された。

一つは、保育所や保育士の保育に対する姿勢として、保育所ならびに保育士は、保護者への子育て支援ニーズを意識あるいは認識しながら保育を実践していることが明らかとなった。この点については、保育実践者であれば当然の結果と考えられるが、本調査結果を通して数量的に把握したことに意義がある。さらに、本研究では、保育指針に基づいて45項目の保育内容を設定し、個別に評価を行った。その結果、項目ごとに異なる回答が得られた。これは、今後、保護者の子育て支援に対する保育内容を検討する際にはもちろん、保育の質や保育内容のあり方などを議論する際に有益な情報になりうると考えられた。

第二に、保育指針に基づく保育内容及び子育て支援に関連する保育の実施状況や保育者の意識、さらには保護者の意識から、日々保育所で行われている多くの保育実践の内容は保護者の子育て支援としての機能を果たしていたという点である。保育の提供者である保育所や保育士は、実際に行なっているさまざまな保育内容が保護者の子育ての支援に資すると考えており、一方の保護者も保育所で行われている保育が子どもの成長発達のみならず自身の子育てに役立っているとする回答が多かった。これは、保育所や保育士の意識と保護者の意識が一致していることを表しており、保育所の保育の姿勢が保護者に理解されている結果であると推測された。

第三として、いわゆる満足度という指標において、保護者は現状の保育に満足していることが確認された。さらに、保育そのものが子どもの成長発達や子育ての支援にも有効であると感じていることが明らかとなった。この点についても先の結果と同様に、保育所の保育が保護者に理解ならびに支持されている結果であると推察された。しかしながら、今以上の子育て支援を望むかについては、望む群と望まない群が分かれる傾向を示していた。満足度との関連で言及した時、満足しているから今以上のことを望まないと推測できる一方、満足しているが更に求めているといったことも想定できる。したがって、今後、意識傾向の詳細な分析をする必要があると考えられた。

本研究の限界として、本研究は山口県内のすべての保育所を対象として調査を実施した。山口県の人口は2019年10月時点で人口約135万人と、全国と比較するとおおよそ中位に位置する地方都市である。東京都や大阪府をはじめとする政令指定都市などを抱える地域と、一方、人口100万人を下回る地域では当然のことながら生活の様式や生活から派生する保育ニーズが異なることは想像に難くない。したがって本調査の結果を全国の傾向として示すには議論の余地があると考えられた。ただし、本調査は一地方都市ではあるが、一行政単位である県を対象とした悉皆調査であり、本研究課題に類似したテーマの悉皆調査は例がない。加えて、山口県内は人口の集中する地域と、人口減少が顕著な地域が点在しているという地域特性を有している。今後、本調査で得られた結果を基に、地域特性による区分を加えた分析を行うことで、全国の地域特性を考慮した傾向を見いだすことが可能であると考えられた。

本研究の第二の限界として、本研究では調査によって得られた回答の記述統計量を中心とした議論しか行っていない。先にも触れたように、全体的な傾向は本研究結果から読み取れるものの、部分的には結果が二分されている項目がある。また、回答者の全てが同じ回答をしているわけではなく少数の意見もある。これらの背景や要因を推定するためにはより詳細な分析を要するため、これらについては今後の課題とした。

おわりに

本研究によって、保護者への子育て支援を意識した保育所保育の現状ならび保育士および保護者の意識が明らかとなった。保育所や保育士は保護者への子育ての支援を十分に意識しながら保育に携わっていることが明示されたとともに、保護者も保育所で行われている保育が自身の子育ての支援に有効だと感じ、満足していることも確認された。同様に、保育所が行なっている行事等をはじめとしたさまざまな取り組み対しても保護者は子育ての支援として有効であるとの回答を示していた。

今後、保育所と保育士および保護者の回答傾向の詳細な分析を行うとともに、地域特性や回答傾向の異なる項目を中心に区分した分析を行っていく予定である。

謝 辞

最後に、本調査を実施するにあたり、山口県の保育関係の皆様には多大なる協力をいただきましたとともに、本研究におけるデータの活用をお許しいただいた山口県子育て支援センター連絡会に深謝いたします。

参考文献

- 1) 厚生労働省 保育所保育指針 2008
- 2) 厚生労働省 保育所保育指針 2018
- 3) 亀崎美沙子 子育て支援における保育士の葛藤 ― 保育経験を有する園長の語りの質的分析から ―、十文字学園女子大学紀要 No.49、p.27-36、2019
- 4) 石川昭義・堀美鈴 今日の社会における子育て支援の意味と保育士の役割 ― 犬山市の調査をもとにして ―、仁愛大学研究紀要 No.2、p.81-95、2010
- 5) 安川由貴子 地域子育て支援拠点事業の役割と課題 ― 保育所・保育士の役割との関連から ―、東北女子東北女子短期大学紀要 No.53、p.79-88、2014